

牧場実習プログラム充実化の取り組み

050

生産環境科学課程 応用動物科学コース
動物管理学研究室 准教授 二宮 茂

e-mail: nino38@gifu-u.ac.jp

応用動物科学コースでは、座学で得る動物科学に関する知識や原理を動物管理現場で実践し、その経験を通して動物管理技術を修得することを目的に、応用生物科学部附属の農場(所在地:岐阜県美濃加茂市)にて、宿泊滞在型の牧場実習を毎年行っています。岐阜大学教育活性化事業による牧場実習の更なる充実化への取り組みについて、以下に紹介します。

◎動物の行動発現原理を応用した動物管理技術実践修得プログラムの実施◎

牧場実習は、肉牛の子牛生産から出荷するまでの飼養管理技術、乾草作成などの飼料生産技術を実習するプログラムで構築されています。新たに、牛の逃避反応や学習能力を利用した牛の飼養管理技術を実習するプログラムを追加しました。



牛の逃避反応の確認

放牧地など牛が自由に動ける場所では、牛を捕まえるのは困難です。牛を健康管理・繁殖管理する場合、捕まえ易い場所まで牛を誘導します。その過程で、牛の逃避反応(牛が人から逃げる行動)を利用します。



誘導中の牛



自ら移動する牛の様子



牛の逃避反応を利用した誘導実習



作業通路への誘導

ロープで捕獲



餌の給与

誘導後に牛に餌を与えます。この作業を繰り返すと、牛は自らその場所まで移動するようになります。牛の学習能力を利用した牛の管理作業の省力化技術の実習です。

↓その他の牧場実習の内容↓

捕まえた牛は、以下の実習にも用います↴



草地整備・収穫
土壌調査・診断
トラクター操法



牛のハンドリング
体重・体尺測定
直腸検査



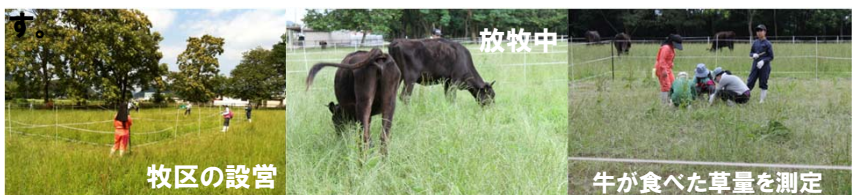
飼料設計
飼料給与
栄養度測定



肉用牛の解説
肥育牛の判定
飛驒牛の試食

◎大学院版高度職業人養成に向けた牧場実習プログラムの構築◎

大学院では、学部での牧場実習での経験をふまえ、畜産の現実的な課題を想定した牧場実習プログラムを行っています。例えば、耕作放棄地を想定した牛の放牧や欧州中心に取り組まれているアニマルウェルフェア(動物福祉)に関する実習で



牧区の設営



牛が食べた草量を測定



電気牧柵と水槽を利用



誘導の技術も活用



体重測定

草地の草量を計算し、2頭の牛を放牧するのに必要な面積を計算します。計算に基づき牧区を設営、そこに牛を誘導し、放牧を開始します。放牧終了後、体重と牛が食べた草量を計測し、放牧の評価を行います。

牛のウェルフェア評価実習では、牛の状態を5つの側面から観察します。欧州連合では、その評価基準を作成し、全農家で実施しています。



牛のウェルフェア評価

堆肥の完熟度の測定

その他に牛糞の堆肥化の測定も行います(右図)。